

事業番号	07 05 09	事業改善シート (25年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	技術専門校設備整備事業				担当課	部局	産業労働部	
						課・室	人材育成課	
						E-mail	jinzai@pref.nagano.lg.jp	
総合5か年計画	プロジェクト	1 - 1 信州をけん引するものづくり産業の振興等 4 人材の育成・確保 1 - 6 職業能力の開発と安心できる雇用・就業環境づくり 1 職業能力開発の推進			実施期間	S13 ~		
	施策の総合的展開							

1 事業の概要

目指す姿	新規学卒者、離転職者等を対象に、就業に必要な基礎的な技能・知識習得のための1~2年間の職業訓練(6月の短期課程を含む施設内訓練)を実施することにより、県産業界の基盤を担う技能者の育成と就業の促進を図る。
現状	○少子化(若年層の労働力人口の減少)、高学歴化(大学全入時代)、若者のものづくり離れ等により、本県経済を支える製造業等において若年技能者が不足している。 ○企業ニーズに対応するため、老朽化した設備や技術革新に対応できる訓練設備を整備する必要がある。

県が関与する理由	県でなければ実施不可(法令等義務) 【左記の説明、根拠法令等】 国庫補助を有効活用しながら実施することが効果的 職業能力開発促進法第19条、第9次長野県職業能力開発計画、長野県ものづくり産業振興戦略プラン 県民との協働による実施: 困難
----------	--

事業内容	① 成果目標(H25)					
	普通課程修了生の就職率85%程度を目標とする。 普通課程の定員充足率80%程度を目標とする。					
	② 事業内容 (単位:千円)					
		項目	実施方法	H25事業実績		
				H25		
				(当初)	(決算)	H26 (当初)
		実習機器等の修繕費	直接	4,456	4,168	8,737
		機器移設費	直接	0	0	0
		保守委託料	直接	1,704	1,660	1,754
		設備リース料	直接	79,852	79,342	81,650
	改修等工事費	直接	0	12,968	0	
	訓練機器購入費	直接	1,685	139,757	125,520	
			合計	87,697	237,895	217,661

事業コスト	区分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	前年度繰越				
	当初予算	82,939	110,726	87,697	217,661
	補正予算	5,912		151,837	
	合計(A)	88,851	110,726	239,534	217,661
	国庫支出金	43,199	58,417	194,784	48,530
	県債				
	その他(繰入金等)				125,520
	一般財源	45,652	52,309	44,750	43,611
	決算額(B)	63,209	108,633	237,895	
概算職員数(人)					
概算人件費	0	0	0	0	
概算事業費(B(A)+C)	63,209	108,633	237,895	217,661	

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26 目標
		目標	成果	達成状況	
修了生の就職率	H25. 3 85.7%	85%	H26. 3 91.9%	達成	85%
定員充足率	H25. 4 84.5%	80%	H26. 4 72.4%	未達成	85%
在職者訓練受講者数(工科短大含む)	H24 2,020名	2,000名	1,830名	未達成	2,000名

目標に対する成果の状況	・景気の回復基調により求人が増えたため、就職率が向上した。 ・また、景気の回復基調により求職者が減ったため、技術専門校への入校者が減り、結果として定員充足率は低下した。 ・在職者訓練は、職業能力開発協会で行っている事業とのすみ分けにより、高校生向けの講座等が減少したため、コース数・受講者数ともに減少した。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 ・修了生の就職率については、引き続き就職指導との支援体制を維持していく。 ・定員充足率については、カリキュラムの見直しや施設や機器の整備を通じて、地域ニーズに応えた魅力的な校づくりを進めていく。
--------------------	---